

アイヌ民族が運営する博物館の意義

愛努民族經營博物館的意義

The Meanings of the Ainu's Running a Museum

野本正博 財団法人アイヌ民族博物館 学芸員

張登凱 翻譯

圖片提供 野本正博



はじめに

当財団は、アイヌ民族が中心となり1976年に設立された。当時の社会状況は、アイヌ文化の伝承保存には厳しいものだった。一方で、当財団が経営する観光施設「ポロトコタン」には、アイヌとその珍しい風俗を見るために多くの日本人観光客が訪れた。観光による収入が当財団の経済的な自立を支え、アイヌ文化の伝承保存活動を可能にした。しかし、かつての生活を中心とした伝統的な文化の再現のみでは、観光客の誤解を招き、職員が好奇の視線にさらされることもあった。このような状況の中、アイヌ文化を総合的に扱う博物館として1984年に開館したのが、アイヌ民族博物館である。当館の誕生は、そこで働くアイヌ自身に大きな変化をもたらした。博物館は、自らの歴

前言

本財団法人以愛努民族為核心在1976年成立。就當時的社會情況而言，欲傳承、保存愛努文化並非易事；一方面，在本財團所經營的觀光設施「ポロトコタン（Porotokotan）」，為了一睹愛努及其罕見的風俗，許多日本人觀光客，前來參訪；觀光收入得以維持本財團經濟上的自主運作，也可維持愛努文化的傳承保存活動，惟藉由過往的生活再現傳統文化，常導致觀光客的誤解，職員亦被投以好奇的眼光。在上述情況下，做為愛努文化的綜合性博物館，1984年愛努民族博物館開館。本館的誕生為在那裡工作的愛努族本身帶來極大的變化。讓他們認知博物館是訴說自身歷史、並將文化傳諸後世的實踐場所。同時，愛努民

史を語り、文化を後世に伝えるための実践の場である、という認識が持てるようになったのである。また、アイヌ自身が博物館を運営することは、国内外におけるアイヌ文化の価値を高め、再評価されるきっかけともなった。当館の活動においても、広く海外にアイヌ文化を紹介し、世界の少数・先住民族と交流を進めていくことが検討された。

白老愛努民族博物館的園區，以愛努民族傳統的Cise（家）來呈現。



1970年代に入ると、アイヌ民族に対する差別法である「北海道旧土人保護法」の廃止を訴え、民族の権利を求める活動が盛んになった。アイヌ民族最大の組織「社団法人北海道ウタリ協会」は1984年の総会で、「日本に固有の文化を持つアイヌ民族の存在を認め、民族の誇りが尊重され、その権利が保障されることを目的」とする内容の「アイヌ民族に関する法律（案）」を決議した。そして日本政府に対して、アイヌの先住民族としての権利を保障する新たな法律の制定を求める活動を展開した。このようなアイヌ自身による活動と、国際的な少数・先住民族の権利や文化復興の機運の高まりが、当財団の設立とアイヌ民族博物館の誕生を後押ししたのである。

進入1970年代，訴求廢止對待愛努民族歧視之法律「北海道舊土人保護法」、以及追求民族權利的活動日趨盛行。愛努民族中最大的組織「社團法人北海道Utari協會」於1984年的總會上，決議了以「承認在日本具有固有文化的愛努民族之存在，尊重其民族自尊，並保障其權利等目的」為內容的「關於愛努民族的法律（案）」；此後，便展開對日本政府制定有關保障愛努先住民族權利新法律的訴求活動。這種愛努本身的活動，以及國際上少數民族、先住民族的權利與其文化復興之機運提升，就催生了本財團的設立以及愛努民族博物館的誕生。

文化傳承に果たす博物館の役割

アイヌ新法を求める活動は、1997年の「アイヌ文化の振興並びにアイヌの伝統等に関する知識の普及及び啓発に関する法律」の制定へと結びついた。現在では同法に基づき、アイヌ文化の振興とそれに関する知識の普及、啓発が進められている。しかし、同法制定以前の日本政府の対応には、アイヌを民族として認め、アイヌ文化を保存してその担い手を育成しようとする積極的な姿勢は見られなかった。そのような状況の中では、一民間の博物館である当館に対する経済的な支援もなかった。当館の経営を支えたのは観光による収益であり、その収益がアイヌ文化の伝承保存と博物館事業を可能にしてきた。また、経済的自立があったからこそ、当館が海外における展示や交流事業を行うこともできたのである。

当財団設立の目的は、「アイヌ文化の伝承保存と公開に必要な事業を行い、北方文化の発展に寄与すること」と定められている。設立以来、アイヌが自らの歴史と文化を伝承保存するための博物館として、さまざまな事業を行ってきた。古式舞踊や工芸技術などの伝承が公開事業の柱であり、そこに近年の新たな研究成果を取り入れて文化の再生を行っている。調査研究を進めるために研究職員を増員し、民族資料の収集や古老からの聞き取り調査に重点を置いてきた。その成果が生かさ

文化傳承中博物館所負擔的任務

愛努新法為訴求的活動連接於1997年「愛努文化振興暨愛努傳統知識之普及與啟發之法律」之制定。現在，基於該法的規定，已開始進行愛努文化的復興及其相關知識的普及與啟發。惟該法制定以前，日本政府對此方面並沒有採取承認愛努是一個民族，以及保存愛努文化，並培養其文化擔當者那樣的積極態度。在此一情況下，亦未給予作為民間博物館之一的本館在經濟的之支援。支持本館的經營，乃來自於觀光收益，這些收益也使愛努文化的傳承保存與博物館事業得以維持下去；又由於經濟上的自主運作，本館才能在海外展開展示與交流等活動。

本財團設立的宗旨為「推行愛努文化的承傳保存與公開之必要事業對寄望於北方文化的發展」。自成立以來，博物館為傳承並保存愛努自身的歷史文化，已進行過各種事業。古代舞蹈與工藝技術傳承的公開事業是支柱，近年來，再納進新的研究成果，進行文化再生工作。為使調查研究有進一步的發展，而增聘新的研究職員，重點放置在蒐集相關民族資料及耆老口述調查。通過成果所產生的常設展與企畫展，參訪者可以接觸愛努的歷史或文化。另外，

アイヌ民族が運営する博物館の意義

れた常設展や企画展を通して、来館者はアイヌの歴史や文化に触れることができる。また、博物館の野外には復元家屋が建ち並び、かつての伝統的な生活空間を再現している。復元家屋の中では常時、手工芸技術の演示や古式舞踊の公演を行っているが、伝統的な暮らしを再現するだけでは来館者に誤解を与える恐れもある。そのために専門の解説員が、現在のアイヌの生活についても併せて紹介している。

伝統的な生活を記憶する古老は年々少なくなっているため、これまでの聞き取り調査は伝承記録として一般に公開するほか、文化の担い手を育成する上での貴重な資料として活用されている。また、当館の公開事業の中心である「アイヌ古式舞踊」は、開館の年に国の重要無形民俗文化財として指定を受けた。開館時より、各分野の専門家の協力を得て進められた研究の成果は、アイヌ文化をわかりやすく紹介した書籍「アイヌ文化の基礎知識」として出版され、一般に広く読まれている。近年、当館全体の入館者数は激減しているが、修学旅行などでの学校団体の利用状況は、2006年度の実績で年間8万人を越えた。学校団体の受け入れに当たっては、各校の要望に応じて学芸員や専門解説員が講話を行い、さらに学習専門職員を配置して各種のアイヌ文化体験メニューに対応できるように体制を整えている。

博物館於戶外重建了幾間愛努的家屋，再現過去傳統的生活空間。在這復原家屋中演示手工藝技術及公演古代舞蹈，但只有再現這些傳統生活，唯恐使參訪者有所誤解，因此專任解說員在此也會一併介紹現代愛努的生活。

有鑑於具有古老生活記憶的耆老日漸凋零，本館亦公開迄今為止的相關口述調查做為傳承記錄向外界公開之外，在培養文化擔任者方面，活用這些貴重的資料。另外，本館公開事業核心之一的「愛努古代舞蹈」，於開館當年，即被指定為國家重要無形民俗文化財。開館迄今經由各領域專家所合作的研究成果，介紹快速認識愛努文化書籍《愛努文化的基礎常識》，業已出版，一般廣為閱讀。近年來，雖本館整體的參觀人數急速減少，然而校外教學旅行等學校團體的本館利用狀況，在2006年度已超過八萬人次。在接受學校團體參訪方面，會配合學校的要求，由學藝員（專業館員）或專業解說員導覽；另外設置學習專門職員（專門指導職員），亦具備能應對各種愛努文化體驗項目之體制。

おわりに

以上で述べたように、当財団の歴史は、観光を目的としたアイヌ文化の公開事業に始まる。その後、博物館の設置により、アイヌ自身が主体的にアイヌの歴史や文化を紹介し、さまざまな情報発信ができるようになった。さらに調査研究の成果は、次世代の文化の担い手育成のために活用され、広く研究者や各地域のアイヌの求めに応じて公開されている。また海外での展示・交流事業は、開催国の先住民族との親交を深め、その後も交流が進められている。このような国際交流事業は、当館の存在意義を地域社会に示す結果となり、アイヌ民族が自ら博物館を運営してきた実績は、国内外から一定の評価を受けている。

愛努民族博物館的外観。▶

結語

綜上所述，本財團的歷史乃肇始於以觀光為目的之愛努文化公開事業。其後，因博物館的設置，愛努民族開始為主體的介紹愛努的歷史或文化，就能傳遞各種相關情報。至於調查研究的成果，為了培養下一代的文化擔當者而活用，並應諸多研究者與各地區愛努人的要求，也已對外公開。另外，海外的展示與交流事業，加強與主辦國先住民族的友誼，之後亦進行交流。這樣的國際交流事業，以顯示出本館在地域社會上的存在意義為其結果，愛努民族經營自己的博物館之實際績效，在國內外得到一定的評價。



▲ 愛努民族的傳統舞蹈。



▲ 館內的「台灣原住民族交流」照片展示。



アイヌ民族が運営する博物館の意義

▼ アイヌ民族博物館入館者数実績（1982年度～2006年度） 愛努民族博物館參觀人次實際績效（1982年度～2006年度）

	入館者数 (參觀人次)			入館者数 (參觀人次)	
	年間	累計		年間	累計
1982年度	579,551	4,269,605	1995年度	507,068	13,079,843
1983年度	548,391	4,817,996	1996年度	512,202	13,592,045
1984年度	602,166	5,420,162	1997年度	474,821	14,066,866
1985年度	579,597	5,999,759	1998年度	407,288	14,474,154
1986年度	613,999	6,613,758	1999年度	406,110	14,880,264
1987年度	707,064	7,320,822	2000年度	318,375	15,198,639
1988年度	733,587	8,054,409	2001年度	295,009	15,493,648
1989年度	806,486	8,860,895	2002年度	264,478	15,758,126
1990年度	840,116	9,701,01	2003年度	284,275	16,042,401
1991年度	871,621	10,572,632	2004年度	265,134	16,307,535
1992年度	772,682	11,345,314	2005年度	230,938	16,538,473
1993年度	650,356	11,995,670	2006年度	246,963	16,794,307
1994年度	577,105	12,572,775			



◀ 安克拉治博物館所展出的，
Ainu Ramaci。

展示インフォメーション
タイトル：

Ainu Ramaci ~ Soul of the Ainu: Art and Craft of Northern Japan

会場：Anchorage Museum（アメリカ合衆国アラスカ州・アンカレッジ市）

会期：2007年10月7日～3月30日

会場：University of Alaska Museum of the North（アメリカ合衆国アラスカ州・フェアバンクス市）

会期：2008年1月26日

伝統を受け継ぎながら、現代に息づくアイヌ工芸の世界を、伝統的な技法を用いた衣服や木彫などの作品を中心に紹介。アイヌの精神文化は、シベリアやアラスカの先住民族との類似点が多く、作品からは北方地域の文化的な繋がりを知ることができる。

この展覧会は、財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構の主催により、はじめて海外で開催された事業である。

展覧訊息

展覧主題：

Ainu Ramaci ~ Soul of the Ainu: Art and Craft of Northern Japan（愛努之魂：北日本の藝術與工藝）

http://www.anchoragemuseum.org/changing_exb.asp#AINU

陳列会場：安克拉治博物館（Anchorage Museum，美國阿拉斯加州 安克拉治市）

展期：2007年10月7日至12月16日

陳列会場：アラスカ大学北方博物館（University of Alaska Museum of the North，美國阿拉斯加州 費爾班クス(Fairbanks)市）

展期：2008年1月26日至3月30日

傳統風貌，卻充滿現代氣息的愛努工藝世界，本次展覽主要呈現出以傳統技法做成的衣服與木雕等作品。愛努的精神與文化，和西伯利亞及阿拉斯加之先住民族頗多類似，從作品中也可一窺北方區域文化的關連性。

本次展覽由財団法人愛努文化振興・研究推進機構，首次於海外地區主辦。